

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 2 月 29 日

所属	人間社会学部	職名	専任講師	氏 名	丸浜千紘
研究課題	学生の大学生活の質的向上とライフ・キャリアイメージの形成支援 ～ピア・サポート活動を通じて～				
研究キーワード	子育て支援 ピア・サポート ライフ&ワークバランス キャリア教育	当年度計画に対する達成度		2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた	
関連するSDGs項目	3. すべての人に健康と福祉を	4. 質の高い教育をみんなに	5. ジェンダー平等を実現しよう	該当なし	

1. 研究成果の概要

コロナ禍において、学生の意欲低下、大学生活に対する不安の増大、学業不信、精神的健康度の低下など懸念される点が増えてきている。こうした問題へのアプローチ方法としてピア・サポートに注目した。ピア・サポートとは、援助者/非援助者としての立場にはっきりと境界線を引くのではなく、同じ立場にある者同士が互いに支え合うことで問題の予防を図る取り組みである。大学生の学生生活における諸問題へのアプローチとしても有効であるとの報告が近年なされるようになってきている。それを踏まえ、本学におけるピア・サポートの可能性と効果について検討を試みたい。ゼミ学生を中心としてピア・サポートを担う学生グループを組織し、ピアサポートを提供できる場の企画立案と実施に取り組んだ。

(1) 学生のピアサポートグループの組織化

ゼミ学生を中心としてピアサポートグループを組織し、1年生の研究基礎クラスに配置される2年生SA同士の交流会を春学期・秋学期のそれぞれ1回ずつ実施した。入れ子状の構造として、企画する側の学生もまたサポート役割を担ったことが自己の成長につながっていくという循環も狙ったものである。

(2) サマーチルドレンプロジェクト

2022 年度の「子どもと家族の心理学」で学生からプレゼンされた企画案を AL プロジェクトとして実施した。8 月中の 5 日間、真間小学校、市川小学校、国府台小学校の小学生延べ 200 名を受け入れ、終日預かりを実施した。子どもたちとの世代間交流だけではなく、学生が直接保護者とやりとりをし、受け入れ・預かり・送りを担うことで、子育て世代との交流の機会となった。学生たちが普段交流することのない世代とのコミュニケーションを通じて新しい学びを得られることも一つの目的であった。今後も継続して取り組み、10 年後 20 年後の自分たちの未来をイメージできる学生にとっての学びの場としていくことを目的としていきたい。

(3) ワーク&ライフインターン

学生が子育て世代と交流を持つことを通じて自分の 10 年先をイメージしていくために、どんな働き方をしたいのか、どんな生き方をしたいのか、自分について考え学ぶ機会を設けた。若手の社会人や子育てをしているママ社員をゲストとし、仕事と子育てのリアルについて直接話を聞くことで、将来の長期的なキャリアを考える取り組みである。子どもとの触れ合いも実際に体験し、自分のなりたい姿を描いていった。

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【著書・論文(査読なし)】

『はじめての人間社会学』 中央経済社 第6章「予防」の心を育もう～支え合う社会をめざして～

【学会発表等】

町田市医師会講演会『どうする 子どもが学校に行かなくなったら』 パネリスト

(寄稿)『学校に行けない子どもたちへの初期対応から考える～“自分で決める”ことへの課題』 町田市医師会報

3. 主な経費

- ・ピアサポート企画実施にかかる経費（文房具、プログラム実施当日の菓子類等）
- ・学生研修プログラム『ワーク&ライフインターン』業務委託費（資料作成代および講師料）
- ・学生の事前事後学習必要経費（文房具など）

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

(本文は2ページ以内にまとめること)